

Arkaos MediaMaster ~Ver.5 アップグレード~

有限会社ゴング・インターナショナル
〒135-0004 東京都江東区森下4-17-13
TEL : 03-5600-7763 FAX : 03-5600-7764
E-mail : gong01@gonginternational.jp
URL : http://gonginternational.jp



MediaMaster5で追加された主な機能です。(最新ver.5.4.1現在)
バージョン4と比べて、機能がより充実し、色々な用途での導入に
より便利になりました。

Ver.5.3以降対応

NewTek NDI・Spoutプロトコルに対応

「NDIプロトコル」とは「ネットワーク上のデバイス同士で、
双方向のコンテンツ共有をリアルタイムで可能にするプロトコル」です。
*「NDI」という名称は「Network Device Interface
(ネットワークデバイスインターフェイス)」の頭文字からきています。

ネットワーク上にあるプロトコル対応のデバイス同士で、
コンテンツの双方向の共有をリアルタイムで可能になりました。
例えばNDI対応のビジュアライザーへMediaMasterから映像を送ることも簡単に行えます。
* SpoutのMAC版といえる「Syphon」はver.2.2.5の時に実装済



Control Bindings機能

外部信号で制御する際の設定を行っていた「ShowSettings」が
「Control Bindings」と名称変更され、機能・内容が大幅に変更されました。
設定内容を従来よりも細かく設定可能に。
一時停止やブラックアウトなどこれまで設定が無かった項目も追加された
コントロール設定をテンプレートとして管理できるようになり、
作成した設定を保存・読み込みすることで、現場ごとに毎回設定し直す手間が無くなり
作業のスピードアップに繋がります。



Ver.5.0以降対応

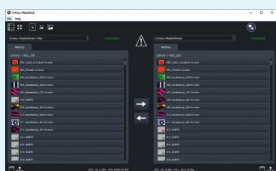
最大レイヤ数

同時に出力できるレイヤの最大数が増加しました。
MediaMaster Pro
ver.4:最大12レイヤ → ver.5:最大36レイヤ
MediaMaster Express
ver.4:最大8レイヤ → ver.5:最大12レイヤ



メディアハブ

拡張機能としてメディアハブというアプリが追加されました。
これはMediaMasterのPCやサーバーをネットワークで繋ぐことにより、ライブラリ
の素材をコピーや削除等を行うことができる機能です。
素材をライブラリごとコピーして移動できるので、バックアップ用マシンを設定
する時間を短縮することが可能です。あるいは、離れた場所にあるマシンの
ライブラリ内容の変更を、手元のPCで行うこともできるようになりました。



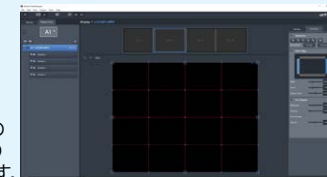
VideoMapper機能の変遷

■5.1以降

VideoMapperのアウトプットごとにソフトエッジ機能及びジオメトリック補正を
設定可能になりました。また、アウトプットをグループ化する機能が追加され、
複数画面で1つの素材を出力するような場合の補正が行いやすくなりました。

■5.3以降

4K素材をフルHDに仮想的に分割するための4×1、1×4、および2×2スパンが
サポートされました。「Span Arrangement」オプションは、これらのスパンをどの
ように並べ替えて連続表示を形成するかを設定できます。例えば、4台のフルHD
プロジェクターを組み合わせるといったことが可能になります。



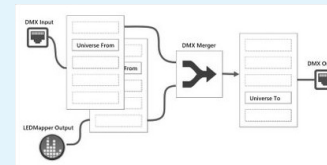
■5.4以降

Fixtureモード時にVideoMapperのアウトプットごと/サーフェスごとに
色調・エフェクト・サーフェスのブレンド具合の調整がDMXで制御できるようになりました。

Ver.5.2以降対応

DMXMerger

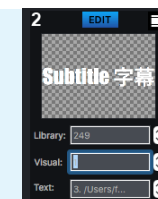
DMXMergerとは、LEDMapperに追加された機能です。コンソールから
出力されるDMX信号と、LEDMapperで出力するDMX信号とをマージさせて
フィクスチャへ送ることが可能です。
ピクセル制御可能なムービングライトへ、MediaMasterからLEDMapper経由で
映像データを送り、パンチルトなどのパラメーターはコンソールで制御する
というようなシチュエーションにおいて、従来よりもシンプルなシステム構築が
可能になりました。



信号のマージ強度はブレンディング機能により、自由に変更することが
できます。また、フィクスチャデータのチャンネル設定にカラー以外の
パラメータを設定できるようになり、幅広い機材の設定/制御が
格段にしやすくなりました。

字幕表示・日本語表示に対応

バージョン5より、新たにLyricPlayer(リリックプレイヤー)機能が追加。
ライブラリ「249_SubtitlesFolder」内の素材を使うことで、読み込んだ
テキストファイル(.txt)を再生することができます。
これにより、日本語表示や複数行にわたる字幕等が表示できるようになりました。
新たに拡張されたテキストライブラリには最大255個のテキストファイルを
読み込んでおくことが可能です。



LEDMapper3

LEDMapperがver.2からver.3へアップグレードし、より大規模なネットワークに
対応可能になりました。
加えてユニキャストのサポートによりネットワーク負荷を軽減。
インターフェイスで自動検出されたデバイスを表示し、
フィクスチャのIPアドレスを簡単に割り当てることが可能になる等、これまでよりも
設定時間が短縮でき、使いやすくなりました。

